

(別記様式)

平成29年度府立北桑田高等学校美山分校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン)

( 計画段階 )

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
1 専門教科・普通教科の学習を通して、学力の充実を図る。 2 働きながら学ぶことを基本とし、規則正しい生活習慣と生きる力の充実を図る。 3 特別活動等を通して、地域後継者の育成と地域文化を支える豊かな心の育成を図る。	[成果] ・基礎基本の定着に重点を置いた授業展開ができた。 ・多様な卒業予定者に対し、希望進路の実現ができた。 ・実践を重視した専門教育の充実が図れた。 [課題] ・生徒個々に応じた学習支援の充実を図る。 ・学年進行に合わせてソーシャルスキルの充実を図る。	1 教材や指導方法の工夫改善により、基礎・基本の充実を図る。 2 農業科と家政科の連携した取り組みを積極的に推進する。 3 個々の教育的ニーズに応じた適切な教育的支援を行い、希望進路実現を図る。 4 生徒全員の就労を実現し、定時制教育を充実させる。 5 地域との連携を深め、地域の力を活用した学校づくりを推進する。 6 安全安心な学校づくりを進める。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	教職員の能力の向上	教育情報の積極的な収集や校内外での研修への積極的な参加 教育実践の日々の交流による指導の充実 身近な物の整理整頓から安全確保の推進		
	組織的な指導体制の確立	各分掌・担当者・管理職等への報告、連絡、調整の徹底 全ての教育活動における組織的・計画的な実践の推進		
教育課程	学校の特色を生かした教育課程の編成	学科に応じた特色ある教育課程の編成 生徒の基礎学力の定着を可能にする教育課程の編成 生徒の進路実現に向けた教育課程の編成		
教科指導	各教科の目標を明確化し、計画的な指導の実践	年間計画に基づいた計画的な指導 授業公開を通しての授業改善		
	学力の充実と向上	学期ごとの年間指導計画の点検と見直し 生徒の学力、理解の程度等を把握しての指導 学習習慣の確立や基礎事項の反復等、学力の充実のための手立てを講じる。		
特別活動	計画的で充実したホームルーム活動を実施する。	4年間を見通したホームルーム活動の指導計画を作成する。 学年団で連携を密にしホームルーム経営の改善・工夫に努める。 各学年ごとの適切なホームルーム内容になるよう努力する。		
	創意工夫した学校行事に取り組む。	文化祭の成功のため生徒会を中心に全校を挙げた取り組みを行う。 様々な学校行事の主役は生徒であるとの認識を基本に指導する。		
	自主的な生徒会活動を目指す。	生徒会活動を通して自主的に何事にも取り組む力を付けさせる。 各局活動の見直しと精選を進める。		
進路指導部	地域で働きながら学ぶ中で、自らの適性に合った希望進路を実現する意欲・能力を育てる。	就労の実態を把握し、不就労生徒への援助・指導を強化する。 希望進路の把握と指導を強化し、全体のガイダンス・個々の指導を充実する。 口丹及び周辺地域の求人の開拓・確保に努める。 支援を要する生徒の進路指導を、支援機関と連携し保護者と共に進めて行く。		

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策				
生徒指導	問題事象の発生を未然に防いだり、早期に発見ができる体制を構築する。	アンケートの実施や日常的な目配りを心がけ、生徒の状況把握に努める。 効果的な各分掌との連携を進め、問題事象の予防や早期発見に努める。 地域や関係機関とも連携しながら、問題事象に適切に対処するよう努める。				
	信頼、思いやりに基づく人間関係の育成に努力する。	相手を思いやる気持ちを育て、信頼に基づく人間関係を築くように指導する。 いじめなど、他人を傷つける言動は絶対に許さないとの強い指導を行う。 あいさつの励行、適切な言葉づかいや身だしなみを指導する。 文化的な教養を深めるような行事等により、豊かな人間性を育む。				
人権教育	互いの個性や価値観の違いを認め、自己を尊重し、他者を尊重する感性と主体的に考え、解決しようとする態度・能力を育成する。	困難な条件を持つ生徒の社会的自立にむけた支援のための学習を計画的、組織的に実施す 全ての生徒に人権問題についての理解や認識する力をつけ、実践的態度を育てる学習を 人権教育の科学的認識を系統的に育てるため教科学習の指導を充実する。 人権教育について、教職員の指導力を高める取り組みをする。				
図書視聴覚	図書の充実を図り、読書環境を整え、教育活動に寄与するよう努める。	生徒の読書への興味を持たせる取り組みを工夫する。 文化局を中心に図書の整備を行い、読書環境を良くする。 生徒の興味関心に沿った図書・視聴覚教材を購入する。				
情報教育	円滑な情報教育ができる環境を整備し、情報活用能力や情報モラルの向上を図る。	校内の情報教育の充実を目指す 新校務システムを円滑運営できるよう複数で問題を共有しながら運営する。 情報教育環境の整備に貢献する。				
研究・研修	授業研究等を推進し、教科指導・生徒指導の資質向上	学校の課題に合わせた校研修を行い、指導力の向上を目指す。 定通研の成功に尽力し、教職員の資質向上に貢献する。 外部での公開授業、各種研修会へ、積極的に参加する。				
健康・安全教育	自らの健康管理能力を高める。 課題を持つ生徒の支援を図る。	生徒一人一人に時間をかけ丁寧に対応する中で、自分の言葉で自分の生活やからだに語れる力をつける。 生徒の特性を理解し適切な支援が出来るように関係機関及び保護者と連携を大切にする。				
施設・設備管理	施設・設備の点検を行い、安全管理を徹底する。	一般施設・設備及び防災施設・設備の日常点検・定期点検を実施する。 防災教育等防災教育を計画的に進める。 耐震補強工事にかかわり教育環境の改善と安全管理を徹底する。				
農場部	農業に関する専門知識や技術の学習を通して生きる力を身に付ける。 地域との連携を推進し、地域に貢献する意欲と能力を育てる。	実習を中心とした体験的、実践的な授業を展開する。 チームワーク・コミュニケーション・プレゼンテーションの力を付ける。 学年ごとの生徒の実態に応じた学習内容を検討し、指導方法の工夫をする。 農業クラブ活動を活発なものにする。 農場生産物の販売を積極的に行い地域からの評価を得る。				
家政科	家庭生活に関連する知識・技術の習得と主体的・実践的な態度を養う。 専門性を深め、地域の暮らしに目をむけて考え、向上させる意欲を	学習効果に結びつく適切な教材を工夫する。 実践的・体験的な学習の機会を多く設定する。 生徒個々の実態に応じた適切な補習等の実施を行う。 地域の施設や保育所等での体験実習の実施や専門家から直接指導を受ける機会を設定				

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策				
第1学年部	高校生としての自覚を持たせることを重点とし、基本的な生活習慣・態度・マナー・基礎学力の定着を目指す。	学習環境を整え、授業に集中できる場づくりをする。				
		何事にも自分の責任で行動をするという意識を持たせる。				
		他人を思いやる気持ちをはぐくむ学級づくりをする HR活動・学校行事に積極的に取り組ませるよう工夫する。				
第2学年部	一年間の経験をもとに先を見据えた行動をとらせ、学校の中心となれるように働きかける。特別活動の充実を図り、よりよい人格形成を促す。	何事にも自分の責任で行動をするという意識を持たせる。				
		他人を思いやる気持ちをはぐくみ、全員で協力できる学級づくりをする。 HR活動・学校行事に積極的に取り組ませるよう工夫する。				
		具体的な目標を立て、自ら見直し達成できる力をつける。				
第3学年部	上級生としての自覚を持たせて、基本的な態度と能力が定着するようにさせる。また、次年度の進路実現を見据えた行動ができるように準備をさせる。	基礎学力の定着と底上げを目指す。 ルールやマナーなどの守るべきことを意識させる				
		個々の能力に応じた進路の方向性を考えさせ、進路選択に繋げていく。				
		自分を知り能力に応じた、納得できる希望進路を実現する。 他人を思いやる気持ちを育み、社会に出て円滑な人間関係を築けることを目指す。 最高学年として、行事などでは下級生をリードし全体を見る意識を持つ。				
国語科	生徒の実態に応じた指導によって、基礎学力の向上を図る。	個々の生徒の実態に応じた学習内容を検討し、指導方法の工夫をする。 話す・聞く・書く・読む学習をバランスよく行う。 学習に遅れが生じる生徒には、年間を通して補充指導を行う。				
		1年次は、高校数学で必要とされる計算を徹底して練習する。 1年次は中学との接続に配慮した授業を行う。 演習の時間を多く取り、受け身にならぬよう配慮する。 学習に遅れを生じる生徒には、補充指導を行う。				
		レポート作成を課題とし運動に対する知識理解を深めさせる。 2学期は耐久走に向けて持久走の授業に取り組む。 運動を通じて公正、協力、責任などの態度を育てる。 教科保健を通じ健康で安全な生活を送るための基盤を培う。 教科保健を通じて環境問題・健康問題を解決できる教養を身に付ける。				
保健体育科	生涯を通じて継続的に運動できる能力や、自らの健康を管理・改善していく資質を育てると共に、運動技能を高め強健な心身の発達を目指す。	聴く、読む、話す、書くいう四技能をバランスよく学習させる。 言語だけでなく、外国の文化についても理解を深める。 英語指導助手と連携しながら、充実した英語学習を進める。 必修の授業では、基礎力の定着に焦点を当てる。 選択の授業では、進路実現も視野に入れ、応用力の伸長を図る。				
		選定の授業では、進路実現も視野に入れ、応用力の伸長を図る。				
		選択の授業では、進路実現も視野に入れ、応用力の伸長を図る。				
英語科	中学校での学習を土台にしながら、多様な言語活動の有機的な関連を図った指導を実施し、実践的コミュニケーション能力を育成する。	聴く、読む、話す、書くいう四技能をバランスよく学習させる。 言語だけでなく、外国の文化についても理解を深める。 英語指導助手と連携しながら、充実した英語学習を進める。 必修の授業では、基礎力の定着に焦点を当てる。 選択の授業では、進路実現も視野に入れ、応用力の伸長を図る。				
		選定の授業では、進路実現も視野に入れ、応用力の伸長を図る。				
		選択の授業では、進路実現も視野に入れ、応用力の伸長を図る。				
家庭・地域社会との連携	教育目標の達成を目指して、育友会・各種関係機関との連携、協力を進める。	家庭訪問等により、家庭と積極的に連携する。 地域社会・関係諸機関等と積極的に連携する。 育友会事業及び体育施設開放をはじめ、社会教育を支援する。				
		家庭訪問等により、家庭と積極的に連携する。 地域社会・関係諸機関等と積極的に連携する。 育友会事業及び体育施設開放をはじめ、社会教育を支援する。				
		家庭訪問等により、家庭と積極的に連携する。 地域社会・関係諸機関等と積極的に連携する。 育友会事業及び体育施設開放をはじめ、社会教育を支援する。				
学校関係者評価委員会による評価						
次年度に向けた改善の方向性						